

REGURAR  
CLOSE UP

# 血液内科

血液内科  
副医長

山本 聡



## 当科の概要

リウマチ血液内科として、血液疾患、リウマチ膠原病の診療を同一で行っていましたが、担当医の専門領域をより特化し、平成21年4月より血液内科として独立した科となり、診療しております。スタッフは、山本聡副医長、坂井俊哉副医長、山口圭介副医長の血液内科専門医3名にて行っており、4月からは1名増員の予定です。また向井正也リウマチ科部長(兼任)にも引き続きサポートを頂いております。

## 当科の特徴

当科では急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍をはじめとして、各種の貧血(再生不良性貧血、溶血性貧血、悪性貧血など)、骨髄異形性症候群、血小板減少などの各種血液疾患に対応しております。入院定床は30床で、うち無菌管理可能な病床を6床有しております。入院患者さんの大部分は、悪性リンパ腫、急性白血病多発性骨髄腫などの造血器悪性腫瘍で占めております。高リスクの悪性リンパ腫や多発性骨髄腫の方には、積極的に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を行い、急性白血病などに対しては、血縁者間同種造血幹細胞移植も随時行っており、ここ数年は毎年約10件程度の移植数で推移しております。一般的な化学療法は、入院で導入の後、可能であれば、外来化学療法を積極的に推進していく方針ですが、御高齢の患者さんも多いためか、入院にて継続治療を要する方も多く、慢性的に空床が不足している状態です。新規の入院患者さんの受け入れが困難な場合もあり、大変ご迷惑をおかけしておりますが、クリニカルパスの導入などで効率化を図り、より多くの患者さんの治療が可能になるよう努力しております。



## 地域連携

当科外来は月、木が坂井、火が山口、水、金は山本が担当しております。造血器腫瘍は長期寛解あるいは治癒が期待できる場合も多いため、治療が一段落した後は、引き続き地域の先生方に逆紹介させて頂き、慢性疾患の継続加療や急性上気道炎などの初期対応をお願いできますと幸いです。

## 血液膠原病談話会

地域の先生と「顔の見える連携」を目指して談話会を開催しています。リウマチ科との合同で、年に2回程度、これまで計8回の談話会を開催いたしました。次回は10月頃に当科の診療体制、ショートレクチャーののち、血液疾患の地域連携につき特別講演を計画中です。改めてご案内申し上げますが、多数のご参加をお待ちしております。



写真

上：(前列右より) 向井部長・柴 景子研修医  
(後列右より) 山本副医長・坂井副医長・山口副医長  
成田 有季哉研修医・千葉 智一研修医  
左：無菌室